

# なかま

除雪車に 雪の白さも 三度まで  
雪日和 図書館ひとり 繁盛す

## 行事予定

2月23日 入園説明会 13:00~14:20  
3月2日 体験入園  
3月2日 父母会総会 13:00 映画 15:20 総会  
3月16日 卒園式 12:30 卒業式 14:30  
4月6日 入園式 入学式  
4月13日 選択教科開始

## 古本市大盛況 お礼

恒例の古本市は保護者の皆さん、そして当日を運営された図書係の皆さんのご尽力により盛況裏に終えることができました。本は重いですが、多くのお皆さんが楽しみにしている古本市なので、価値ある重さだと思います。係の皆さんには、早朝から夕方までご苦労様でした。

売上金\$2,167 は全額学校にご寄附いただきました。ありがとうございました。

## 遊びはけがをしないように！

2月16日の外遊び中に、生徒たちの投げた枯れ枝が他の生徒の目の下に当たって怪我をするという事故が起きてしまいました。幸い大きなけがにはならず済んだのですが、そのようなことが起きないように今後の戒めしたいと思います。

特に低学年では、つい夢中になってしまうこともあるので、注意したいと思います。もう一つ、雪で作った屋根に多くの生徒が次々に登っていましたが、片方が折れそうな状態になっていたの心配もしました。

## 駐車場の事故に注意！

大雪のためにスリップ等で車を傷つけた方がいるように聞いています。駐車場は校舎前とスチューデントセンター前が用意されていますが、安全第一で、充分注意して使用してください。

## 価値ある皆勤賞

皆勤賞をとることを励みにして日本語学校に通い、学習を続けている家族がたくさんあります。「皆勤賞を目指していたのに、高熱が出てしまって仕方なく休みました」という話を聞きました。残念さが伝わってきます。来年こそは、皆勤賞が取れるように頑張ってください。

プリンストン日本語学校新聞



平成25年度 No.39号

平成26年2月23日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

「宮沢賢治」ってどんな人？（7） 芝崎雅行

童話集『注文の多い料理店』には、賢治が書いた「広告文」があって、これも青空文庫で読める。例のごとく、冒頭を引用すると、

イーハトヴは一つの地名である。強て、その地点を求むるならばそれは、大小クラウスたちの耕してゐた、野原や、少女アリスが辿つた鏡の国と同じ世界の中、テパーンタール砂漠の遙かな北東、イヴン王国の遠い東と考へられる。実にこれは著者の心象中にこの様な状景をもつて実在したドリームランドとしての日本岩手県である。

そう、賢治は「アリス」を読んでいたんだよね。1920年にはテニエルの挿絵で日本でもしっかりした翻訳がされていた。賢治が、ルイスキャロルとアンデルセン、トルストイなどの童話いつごろから読み始めたかは分からないけど、賢治の文化的素養、想像（脳内現象）の背景として考えることは出来るでしょ。何もないところから「小岩井農場」の幻想「巨きなまっしろなすあし」は出てこないよね。

童話集『注文の多い料理店』に収められている『かしわばやし夜の夜』は、赤いトルコ帽のとってもヘンな男が、まじめ少年の（でも、ちょっとヘンな）清作クン（賢治自身？）に、つかかかって来る話だけど、これは少女アリスの前に現れて、カラんでくるヘンな登場人物達を連想するね。そういえば、見えたり消えたりするニヤニヤ猫（チェシャ猫）は、「トトロ」のネコバスにもなったわけだ。



宮沢賢治は、なんで小説ではなく童話を書いたんだろう、という問いを思う時、童話の可能性を知っていたということが、その一つの解答だろうね。

（副総務長）



「宮沢賢治ってどんな人？」シリーズは年度をまたいでまだまだ続きますので、乞うご期待！ 生徒や保護者等から多くの楽しい原稿を頂きありがとうございました。来年度もよろしくお祈りします。